

2021年12月期第3四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）QA サマリー

Q1：受注の回復感があつたのはどのような分野か？

A1：我々は、販売先や最終アプリケーションの拡大に努めてきた。IoT分野では広がりが出てきた。2021年3Qは、スマートフォンの受注が伸び悩んだが、顧客の動きが出てきており、2021年4Qでの回復に期待している。特に、広角レンズ・高解像度レンズ・加飾等を中心に、新型装置（スパッタ装置・ALD装置・エッチング装置等）への受注可能性が広がってきている。

Q2：御社の生産高は、四半期毎でボラティリティが高いと思うがどう考えればいいのか？また、3Qの生産高が低いことが、将来の収益性に与える影響は？

A2：顧客との納品スケジュールに応じ、生産計画をたてた結果、3Qの生産高は少なくなった。これが、収益性に大きな影響を与えるとは考えていない。

Q3：上海工場の第3建屋建設や国内の研究開発施設を探していると思うが進捗はあるか？

A3：日本国内で、研究開発設備を探している。年内に投資を予定していないが、本件は当社にとって重要なので、進行中である。上海の第3建屋はほとんど完成しており、中国政府の認可を待っている状態です。

Q4：半導体光学融合のビジネスの広がり状況はどうか？

A4：AR/MRや車載のセンサー等でMEMSが重要な機能を担っている。例えば、MEMSでは、表面の成膜と構造を作るのに必要なエッチング技術を複合的に提供することで、当社は、半導体にかかわる光学ニーズに応えていく。この分野は成長が期待できる。

Q5：2021年の受注は、四半期毎に減少している。昨年も似たような傾向にあつたが、この傾向は、来年以降も続くのか？また、受注の新規分野はどのようなものが増えてくるのか？

A5：当社のビジネスに明確な季節性があるわけではないが、過去を見ると3Qは低い傾向にある。2021年4Qは受注が増加することを期待している。来年以降、同様な動きをするかどうかはわからない。

受注は、自動車、AR/VR、医療などのIoTやミニLEDが伸びたが、スマートフォンは伸び悩んだ。これは、2021年2Qから顧客の生産へ半導体不足の影響がでたことや、一部の顧客では新規装置の開発が遅れていることが影響している。

Q6：世界的なサプライチェーンの問題や半導体不足等が御社に与える影響は？

A6：例えば、金属の価格値上げ等は、生産コストに影響を与える。これに対して、当社3拠点の中で、一番安価な拠点での部材購入等、色々対応している。

当社の上海工場は、通常通り稼働しており、現時点では、停電要請は来ていないが、中国の電力不足もリスクファクターである。

Q7：受注の回復の兆しが出てきた背景は？また、北米スマートフォンからの受注獲得の見通しは？

A7：スマートフォンの受注は、顧客が新機能への投資を控えたことにより、伸び悩んだ。新型コロナウイルス渦ではあるが、世界的に経済活動が動きだし、顧客の生産に回復の兆しが出てきている。特に、AR/MR や車載等の受注が増えてきている。

また、具体的な受注時期は未定であるが、北米スマートフォンスマートフォンとは複数の共同開発を続けている。

Q8：エッチング装置の受注の見通しは？

A8：8月にAGガラス向けドライエッチング装置を実用化し、顧客がそれを試している。RFフィルター向けエッチング装置やAR/VR向けのエッチング装置の開発もすすめている。それぞれの分野で複数社より問合せがあり。成長が期待できるのではないかと。

Q9：コーポレートガバナンスコード改訂により、任意の委員会設置などガバナンス強化や、TCFD対応が求められているが、対応状況は？

A9：コーポレートガバナンスコード改訂に伴い、ガバナンス強化やTCFD等のサステナビリティの対応を進めている。対応状況については、コーポレートガバナンス報告書にて説明していく。

以上